



西部医師会在宅医療推進委員会について（その2）

委員長 野坂美仁

医師会が在宅医療を推進することの意義

国が「在宅医療」を進める理由に「2025年問題」があります。高齢者社会、多死社会を見据え今後増多する「病院死」の受け皿としての「在宅看取り」「医療費削減」という側面が見え隠れしています。前号で当委員会についても「推進ありき」がおかしいのではとの指摘があった事に触れました。「在宅医療」という言葉は立場の違いで受け取る内容が異なり、委員会の中でも議論がなかなか噛み合わないこともありました。

そして、既に医療需要のピークに到達しつつある人口最小の鳥取県では、所謂2025年問題はごく一部の市街地に限られます。

「在宅医療」の主役は住民です。老化による生活機能低下も含め、何らかの病気に罹られた患者さんの病気を治療することはもちろん、我が家で自分らしく生活することを希望された場合はその先に必ず来る「寿命としての死」も見据えつつ、医療の専門家として医療を提供し、患者さんの在宅での生活を支えたと云うのが「在宅医療」の本来の趣旨です。

今後、鳥取県では医師の高齢化や中山間地での医療過疎、病院勤務医の疲弊などが問題となってくると思います。そして更に重要なのが住民と医療者との信頼関係の再構築であると思います。

「在宅医療の推進」は住民と我々医療者の信頼関係の熟成につながると信じています。

在宅医療連携拠点事業

平成24年7月25日（第8回）、9月21日（第9回）の委員会では平成24年4月に実施したアンケートの分析を行いながらプロジェクトを具体化する予定でしたが、西部地区で展開された2か所の在宅医療連携拠点事業との連携に重きを置いた活動となりました。

平成23年度に全国10か所で実施された在宅医療連携拠点モデル事業を踏まえて平成24年度は全国各県への公募でした。厚労省からの在宅医療連携拠点事業の要求内容は多岐に渡っており、（1）多職

種連携の課題に対する解決策の抽出、（2）在宅医療従事者の負担軽減の支援、（3）効率的な医療提供のための多職種連携、（4）在宅医療に関する地域住民への普及啓発、（5）在宅医療に従事する人材育成、（6）災害発生時に備えた対応策の検討という6つのタスクが課されて単年度で成果を上げる事は大変困難なものでした。

鳥取県からは西部地区の米子医療センター（一般枠）と真誠会（復興枠）の2か所（全国では105か所）の事業が採択されました。真誠会は「コズミックリンク」というWEB上で西部地区の医療・介護・福祉情報を一括して閲覧できるシステムを構築され現在も維持管理されています。また復興枠として災害時にも対応可能なモデルシステムを作られました。米子医療センターは新病院に設置される「がん緩和病棟」に対応すべく、がん医療に特化して在宅医療資源のアンケート調査を実施されWEB上に情報公開、各種研修会や講習会、市民向けの講演会などを展開されました。

（西部医師会報No.169号に山本哲夫先生、小田貢先生から詳細な報告がされています。）

なお、平成25年度以降も西部地区では両医療機関に加えて博愛病院と鳥大附属病院の計4医療機関で在宅医療拠点事業が平成27年度末までを目途に継続展開していく予定です。

関連行事と委員会のその後

平成25年に開催された在宅医療に関連した行事として、平成25年1月17日開催の西部医師会公開健康講座で「いつか来る『その時』を考える」と題して私が講演させていただきました。平成25年2月10日には鳥取県と鳥取県看護協会が共催で一般市民を対象にとりぎん文化会館（鳥取市）で「在宅看取りを支える地域づくりシンポジウム」を開催されています。また例年鳥大医学部記念講堂で開催される西部地区医療連携協議会では平成25年2月28日に「在宅医療」を主題としてシンポジウムが開催されました。平成25年10月19日には鳥取県と県医

師会が共同で湯梨浜町ハワイアロハホールで介護事業者・医療関係者を対象に、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授で元厚生労働省事務次官の辻 哲夫氏を迎えて「地域包括ケア・在宅医療推進フォーラム」が開催されました。このフォーラムでの取組発表はコーディネーターを鳥取県医師会の吉田 真人常任理事が務められ、パネリストとして米子医療センターの山本 哲夫先生、真誠会の小田 貢先生、訪問看護ステーション博愛の石橋 佐智子看護師の3名で、全て西部地区からの発表でした。

9ヶ月の間をあけた平成25年6月24日（第10回）と7月29日（第11回）の委員会では以下に記す具体的なプロジェクトを決定しました。

1. 在宅医療支援診療所届け推進（マッチング事業）
2. かかりつけ医支援（サポート医）
3. 病院勤務医への在宅医療理解推進
4. 公民館での在宅医療・在宅看取り講演会推進
5. 在宅医療関連の多職種研修会用PPTファイル作成チーム
6. 「エンゼルノート」（仮称）作成
7. 「西部医師会在宅医療推進委員会」のホームページ作成
8. 米子市が開催する「在宅医療フォーラム」への支援
9. 博愛病院在宅医療プロジェクト支援
10. 鳥取大学在宅医療プロジェクト支援

在宅医療推進委員会名簿（順不同・敬称略）

安達敏明（安達医院）／石井敏雄（旗ヶ崎内科クリニック）／石川 直（石川内科胃腸科医院）／小田 貢、小山雅美（真誠会セントラルクリニック）／越智 寛（越智内科医院）／面谷博紀（面谷内科・循環器内科クリニック）／神鳥高世（神鳥眼科医院）／下山晶樹（下山医院）／田辺嘉直（田辺内科胃腸科医院）／辻田哲朗（辻田耳鼻咽喉科医院）／野口俊之（野口内科クリニック）／野坂美仁（野坂医院）／吹野陽一（吹野内科消化器科小児科クリニック）／福田幹久（ひだまりクリニック）／藤瀬雅史（ふじせクリニック）／寶意規嗣（宝意内科医院）／細田明秀（細田内科医院）／都田裕之（都田内科医院）／小林 哲（小林外科内科医院）／松野充孝（松野医院）／鳥羽信行（小谷医院）／飛田義信（飛田医院）／三上真顯（法勝寺内科クリニック）／佐伯俊哉（佐伯医院）／岸本幸廣、神戸貴雅、松ヶ野 恵（山陰労災病院）／周防武昭、重白啓司、楠本智章（博愛病院）／山本哲夫、松永佳子、山根成之（米子医療センター）／佐々木祐一郎（鳥取県済生会境港総合病院）／陶山和子（西伯病院）／松波馨士（日野病院）／高見 徹（日南病院）／谷口晋一、浜田紀宏、金坂尚子（鳥取大学医学部附属病院）／石橋佐智子（訪問看護ステーション博愛）／生田真由美、岩田美幸（居宅介護支援センターやわらぎ）／川上美都江、毛利公一（米子市長寿社会課）／大城陽子（西部総合事務所福祉保健局）／藤井秀樹（鳥取県健康医療局）／日野 力、山本伸一（鳥取県健康医療局長寿社会課）／前田陽三、砂川祐貴、中西真治、前田信彦（鳥取県健康医療局医療政策課）／谷上道夫、立花寛美、小林真理子、伊田由三（鳥取県西部医師会事務局）

11. その他（米子市におけるモデル地区プロジェクト（仮称））

各プロジェクトに多くの委員の方々に参加協力の手を挙げて頂き、まず平成25年8月28日に飛田義信先生のお骨折りによりチーム医療推進マッチング事業を行い11医療機関の先生方の間にめでたく連携医マッチングが成立致しました。「もしもの時のあんしん手帳」も大城陽子先生のお骨折りにより無事に初版が完成し、平成26年1月26日に開催された米子市主催の「在宅医療推進フォーラム」では250名の参加者全員に手帳をお配りいたしました。2月の第34回西部医師会一般公開健康講座（参加者137名）では神鳥高世先生自らが「我が家で自分らしく生き暮らし続けるために」と題して在宅医療講演会用のPPTファイルを用いて講演されました。公民館などでの今年度（平成26年）分の講演依頼も現時点で既に17件に達しています。

プロジェクトの中には未だ手着かずのものもありますが、幸いに本事業も平成27年度までの延長を県の方へも認めて頂きました。亀のような歩みで、花火のように派手ではありませんが着実に成果を上げていきたいと思っています。皆様のご理解とご協力を今後ともよろしくお願い致します。